

PICK OUT! No.18

JPNIC ブログコーナー

JPNICブログから、2025年10月に開催された「インターネット・ガバナンスに関する日仏会議2025」への参加報告をピックアップしました。ブログでは他のセッションについても解説していますので、ぜひご覧ください。

dom_gov_team 2025年11月7日 インターネットガバナンス 他組織のイベント



<https://blog.nic.ad.jp/2025/11344/>

「インターネット・ガバナンスに関する日仏会議2025」参加報告

2025年10月16日および17日、在日フランス大使館(東京都港区)にて「インターネット・ガバナンスに関する日仏会議2025」が、在日フランス大使館、Afnic (Association Française pour le Nommage Internet en Coopération、フランスの.fr ccTLDレジストリ)、慶應義塾大学X Dignityセンターの共催で開催されました。JPNICはPartnerとして開催に協力しました。

この会議はすべて英語で行われ、現地参加は招待者限りでしたが、遠隔参加は誰でも可能となっていました。主催者の一つである在日フランス大使館によれば、現地参加が約40名、遠隔参加が約10名だったとのこと^{※1}。

会議は次の五つのセッションからなり、それぞれ3名または4名のパネリストが発表した後、質疑応答というスタイルで進行しました。

1. 新興技術とAIガバナンス: インターネットガバナンスとの類似点は何か
2. マルチステークホルダーガバナンスモデル
3. インターネットの利用において、どのようにトラストを取り入れるか
4. 埋め込まれた人権に関する相反する見方
5. 国境を跨いだデジタル交換およびデジタル主権に関する特別セッション

初日である16日には、二つのセッションが開催されました。2番目の「マルチステークホルダーガバナンスモデル」では、在日フランス大使館のBordes氏がモデレーターを務め、JPNICの前村およびフランス側より2名の方が登壇しました。



前村は「インターネット基盤の技術コミュニティとマルチステークホルダーリズム」と題して発表しました。マルチステークホルダーモデルを、その大元となった、当事者自身が方針策定に関与するというインターネット基盤運営のやり方の観点から、インターネット基盤のガバナンスとインターネット上のガバナンスの二つに大別して、それぞれの在り方を議論しました。

マルチステークホルダーガバナンスモデルセッションで話す前村



翌17日には三つのセッションが開催されました。最後の「国境を跨いだデジタル交換およびデジタル主権に関する特別セッション」では、慶應義塾大学の太田恵子氏がモデレータを務めました。最初に同学の村井純氏より「インターネット文明とそのガバナンス」と題して、インターネットのサービス提供範囲、インターネット基盤のさまざまな形、研究・教育ネットワークの広がりなどについて発表がありました。

「国境を跨いだデジタル交換およびデジタル主権に関する特別セッション」で話す村井氏

本イベントは、日仏両国のエキスパートが「インターネットガバナンス」というキーワードで集った初めての試みとなりました。各セッションでは、タイトルに掲げられたキーワードにまつわる異なる視点からの発表を材料に、質疑応答で議論が展開されるという形式で、議論は実務の具体に落ちるよりも、発表で示された事実関係が示唆する意味合いや、それが別の環境で展開されたと仮定する場合にどうなるのか、といった、いわば哲学的な議論に踏み入ることも多く、知的好奇心が刺激され、深く考えさせられる内容となりました。今回フランス側からの働きかけで実現した試みですが、継続していきたいという意向もあるようで、今後の展開にも期待したいと思います。

※1 <https://jp.diplomatie.gouv.fr/ja/conference-franco-japonaise-sur-la-gouvernance-dinternet-2025>



カテゴリー

- ICANN技術政策文書
- IETF
- Internet Week
- IPアドレス
- JPNICからのお知らせ
- JPNICについて
- JPNICのイベント
- アクセス数Top 10
- [インターネットガバナンス](#)
- インターネットの技術
- コラム
- ドメイン名
- 他組織からのお知らせ
- [他組織のイベント](#)

PICK OUT BLOG

2025
11.7

JPNIC
JPNICブログ
BLOG